

2016 年熊本地震の地表地震断層の分布とその特徴

広島大学大学院教育学研究科准教授 熊原康博

(くまはら・やすひろ)

発表の要旨

・ 14 日の地震（いわゆる前震）直後から 14 大学の教員・学生ら合計 23 名で継続的に調査。3700 点以上計測

・ 地表地震断層の長さは約 31km

・ 今回の活動は、布田川ー日奈久断層帯北東部の再活動

・ 布田川ー日奈久断層帯沿いの地表地震断層の変位：右横ずれ変位を主体

（最大変位量：右横ずれ変位約 2m，上下変位 80cm 程度）

・ 出ノ口断層沿いの地表地震断層は、左横ずれ変位を伴う北落ちの正断層

（最大変位量：左横ずれ変位約 1 m，上下変位 2m）

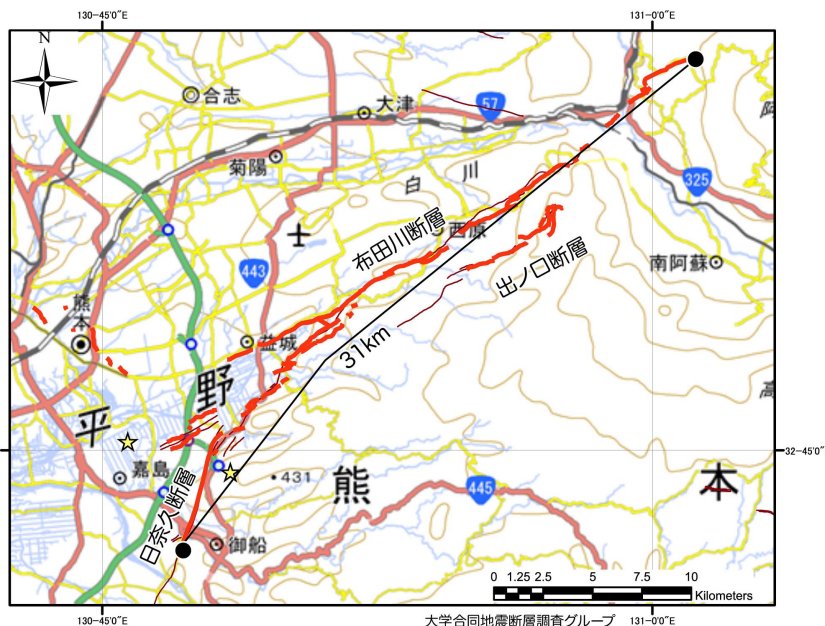
・ 変位量は震央から約 8km 北東に離れた地点から大きくなり、

震源破壊過程モデルで推定されたすべり分布の傾向と調和的

・ 14 日の地震では、日奈久断層、布田川断層の一部にそって地表地震断層が生じており

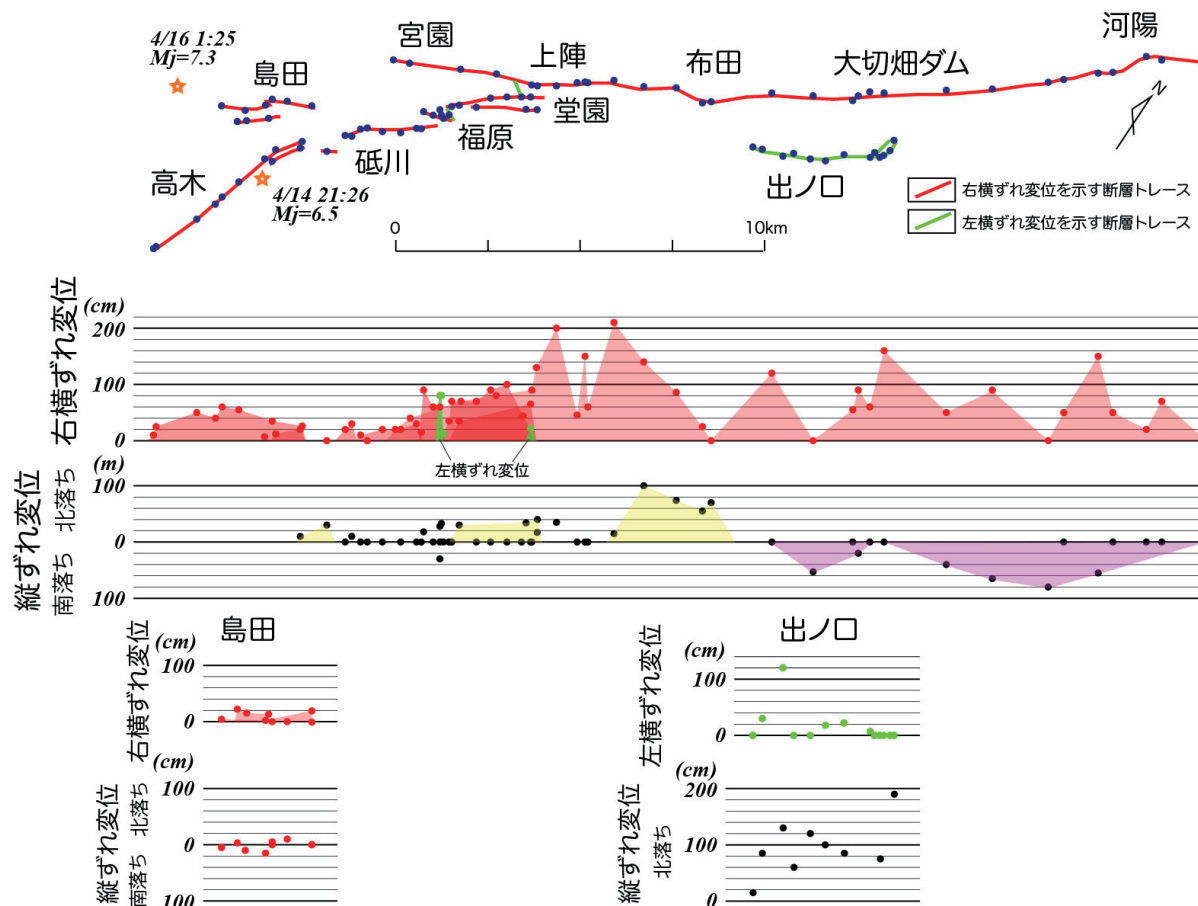
16 日の地震に伴い、同じトレースで変位が拡大した

・ 熊本市内の断続的な開口亀裂は、地表地震断層である可能性が高い



熊本地震に伴う地表地震断層の分布

大学合同地震断層調査グループ



熊本地震に伴う地表地震断層の変位量分布（暫定版） 大学合同地震断層調査グループ